

■ビオトープ・サロン 生物多様性保全と環境学習

今号は、小学生がバトンタッチしながら長年にわたって地域で取り組んでいる希少種の保護活動の紹介です。継続は力なり、見習いたい活動の一つです。 (編集局)

【祖谷の地に生息する希少野生生物を保護する東祖谷小学校緑の少年隊】

記者：片山博之 (会員)



移植されたイヤギボウシの株

「イヤギボウシ」は、徳島県版レッドデータブックで、絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。ギボウシ科の植物で、三好市東祖谷下瀬に群生地があります。昭和53年に旧東祖谷山村の天然記念物に指定されていましたが、日照不足などにより、群落は衰退してきていました。そこで、その保護に乗り出したのが、旧徳島県立池田高等学校祖谷分校でした。

祖谷分校では、イヤギボウシを繁殖して、群生地を復活させようとしてきました。その結果、数百株のイヤギボウシの増殖に成功しました。しかしながら、この祖谷分校は平成16年に廃校となってしまいました。そこで、このイヤギボウシの増殖した株を旧東祖谷村内の小学校に配布して、活動を引き継いでもらうことになりました。それが、旧東祖谷山村落合小学校でした。



移植されたイヤギボウシの開花

平成15年に池田高校祖谷分校から贈られた50株のイヤギボウシの株は、繁殖に取り組んだ結果、平成19年には約1,000株に増殖しました。このイヤギボウシの株を、かつての群生地であった東祖谷下瀬において平成19年11月に移植しました。その結果、翌年の平成20年5月には約150株の新芽が出てきていました。しかし、順調なことばかりではありません。そのうちのいくつかの新芽は、シカの食害に遭いました。

そこで、児童たちは、シカの生態を調べて対策を考えたのです。そして、移植した群生地の周りにポリエチレン製の防護ネットを張りましたが、これは、シカに破られてしまいました。そこで、新たに金網による補強もしました。また、イヤギボウシの生息に適した環境づくりにも取り組みました。日当たりのよい環境をつくるために、地主の協力を得て、周辺の森林の間伐もしてもらいました。

そのような活動の結果、株の数は着実に増え、平成22年には、はじめての開花が見られました。そして、多くの方にイヤギボウシを知ってもらいたいとの思いから落合集落を見渡す中上の展望台に学校で育てたイヤギボウシのプランターと、児童が作成したイヤギボウシの看板を設置しました。平成23年には、地元の方に株を譲り渡して、その人の所有山林にも移植しています。

平成24年4月、落合小学校を含む4つの小学校が統合し、東祖谷小学校となりましたが、この活動は東祖谷小学校緑の少年隊として活動が引き継がれています。これからの目標は、自分たちの手で育てた「ふるさとの花」にイヤギボウシを元のように地域に広げることです。この活動を通して、地域の人との交流や地域の自然に触れ、身近なところから生物多様性の意義を知ってもらい、将来の地域の担い手となって欲しいと考えています。

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより  
**無断転載禁止**：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【環境関連法：正答と解説は次号で紹介】

問044：希少野生動植物保存法（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）に基づき指定された動植物種に関する1～5の説明のうち、正しいものを選びなさい。

1. 生きている個体のみ規制対象とされている。／2. 生きていない場合は、動物種のみ対象とされている。
3. 植物の種子は対象外とされている。／4. 加工品も対象とされている。／5. 卵は有精卵のみ対象とされている。

■前号043の解説

①種の多様性を保全するためには、希少種の保護だけでなく、それ以外の種の保護も不可欠であり、種は相互に作用し合う生態系として保護する必要がある。②遺伝子の多様性は、同じ種でも地域ごとに異なる遺伝子の多様性が重要で、遠隔地の個体を人為的に交雑させる行為は地域固有の遺伝子の消失につながる恐れがある。③生態系の多様性は、森林の生態や草原の生態系といったように、生態系のタイプが多様なことが重要で、優劣ではなくそれぞれの地域や土地に成立する生態系を保全する必要がある。④景観の多様性は、その景観を構成する要素が多様なほど、生態系が多様であることにつながるもので、その要素は地域や土地ごとの自然や文化的特性から生まれるものであって、人為的に変化を付けるものはない。⑤原生的な自然と同様に、里山、雑木林、ため池、用排水路、耕作地や土の畦や農道などの二次的な自然も重要であり、落葉広葉樹林、湿地や小川の代償として、それぞれの生態系に依存する種や複数の生態系を必要とする種を保全するために重要である。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/activity/biokan/index.htm>  
 ※平成24年度の受験申込みは8月10日(金)まで。受験日は9月30日(日)、受験地は2級に限り徳島大学。

ビオトープ・サロン お便りコーナー

寄稿：(KKさん)

【希少植物盗掘の記者発表がきっかけとなり、更なる盗掘で壊滅状態に】

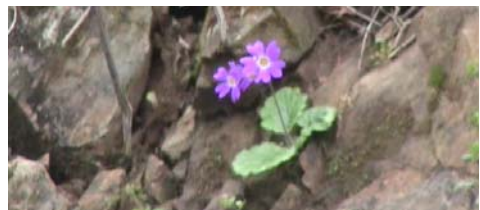
希少種保護でよく議論にあがるのが「情報の公開か非公開か」です。「広く公開して保護意識を喚起する」「非公開にしてそっと隠しておく」性善説か性悪説か…難しい問題です。

今年の5月に、桐生市のカッコソウ(国内希少野生植物種)の盗掘記事が地元紙はじめ、読売新聞や毎日新聞で紹介されました。その概要は、「昨年5月の保護団体の調査では、群生地面積約5.2㎡(100個体以上)」→「今年5月17日の保護団体の調査では群生地面積約1.4㎡(43個体)」→「5月19日に大量盗掘の疑いとして記者発表」→「5月21日の桐生市の現地調査で確認できたのは1個体のみ」とのこと。

記者発表の翌日には、残る43個体のうち42個体が盗掘被害を受けた可能性が高いと推察されています。(とんでもない話！)

徳島県にも同じ仲間(サクラソウ科)のシコクカッコソウやイワザクラが絶滅危惧種に指定されています。できることなら性善説で保護していただきたいところですが、何とも難しいのが現状のようです。

【写真上：カッコソウ(桐生市の元群生地)／写真下：イワザクラ(徳島県内の某自生地)】



■ビオトープ・カルテ みんなで集めるビオトープ情報

記者：樫本幸実(会員)



【特定外来生物が生育域拡大】

ビオトープ・タイプ：河川

規模：10m×100m

環境特性：蛇池川一条樋門を経て吉野川に流入するが普段は止水域。

周辺土地利用：吉野川の堤外地で、採草地やオギ群落が広がっている。

撮影年月日：2012年6月10日

場所：阿波市吉野町西条(西条大橋下流左岸／蛇池川一条樋門下流)



数年前に目にしていたが、定着しているようで、岸辺の両岸に2箇所、流路中央に2箇所、1～4㎡の群落が点在していた。

この他、吉野川中央橋下流の左岸、飯尾川、渡内川でも群生が見られる。ポタンウキクサ、アソラ・クリスタータとともに、特定外来生物の水草として、県内各地で定着し、生育域の拡大が進行していることがうかがえる。

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局

【E-mail: kanv@nifty.com URL: <http://biotopetokushima.yu-yake.com>】